

| | | | | |
|---|----------|-------------------------------------|-------------------------------|------|
| 7 | 課題番号 | 研究課題名 | 研究代表者 | 評価結果 |
| | 15104008 | 全地球史解説 Part II | 丸山 茂徳 (東京工業大学・大学院理工学研究科・教授) | A |
| <p>(意見等)</p> <p>39-30 億年前、27-20 億年前、8-5 億年前、2.5 億年前の大規模な地球変動の記録を、精密サンプリング、微化石の抽出、同位体分析の研究をもとにして解読し、固体地球変動と表層環境変動及び生命進化との因果関係を明らかにすることが、本研究の目的である。世界最古の可能性があると考えられる 36.7 億年前の微化石の発見とその意義についての考察など、地球史・生命史にとって重要と考えられる成果も上げつつある。本研究で得られつつある成果の最終的な学術的評価は下せないが、中間段階としては十分な成果を上げていると判断される。</p> <p>データの吟味と解釈の厳密化を図るとともに、研究分担者の異動による研究推進への影響を最小限にとどめ、更なる発展を目指して欲しい。</p> | | | | |
| 8 | 課題番号 | 研究課題名 | 研究代表者 | 評価結果 |
| | 15104009 | 貝殻形成に関わる遺伝子の網羅的探索：軟体動物ゲノムプロジェクトに向けて | 遠藤 一佳 (筑波大学・大学院生命環境科学研究科・助教授) | A |
| <p>(意見等)</p> <p>本研究は、軟体動物の殻体（貝殻）形成に関与する遺伝子および遺伝子産物の機能を網羅的に探索し、（１）軟体動物における殻体形成機序の解明、（２）殻体発生プログラムの進化過程の考究、（３）軟体動物ゲノムプロジェクトの日本における研究拠点の形成、を目的としている。進捗状況は判断しがたい部分もあるが、殻体の結晶沈着の制御因子や巻貝の巻の制御因子の研究など、全体として順調に進んでいるものと判断される。</p> <p>学際的な研究課題である本研究の推進にあたり、研究代表者と分担者との間の研究上の協力関係が、あまり目に見える形になっていない。真の意味での共同研究により、世界をリードする研究成果を上げることが期待する。</p> | | | | |